

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 上依知小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 武 枝美子

学校教育目標	学校経営の方針
自分で考えて、判断し、行動する児童の育成	<p>学校教育目標の具現化のため、全教職員による協力指導体制を確立し、児童をチームで育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予測困難な時代を生き抜く、「自分で考えて、判断し、行動する児童」の育成</li> <li>・調和のとれた教育課程の編成</li> <li>・主体的に学ぶ力の育成、確かな学力の定着に向けた授業改善</li> <li>・児童の安心・安全確保に向けた環境整備の充実</li> <li>・人権の尊重と、自分のよさや可能性を伸ばす支援・指導の充実</li> <li>・保護者・地域と協働し、地域とともにある学校づくりの推進</li> <li>・学年だより、学校だより、ホームページ等による積極的な情報発信</li> <li>・働き方改革</li> </ul>

今年度の重点目標

- わかる授業づくりに取り組み、「生きる力」の育成に必要な資質・能力を育む
- かけがえのない自分を大切に、健康な心と体をつくる
- 自他を認め大切に、個々の成長を促す学級経営や学校行事を行う
- 地域と共にある学校づくりを推進する
- 地域の自然や人を教育活動に生かす
- 持続可能な社会の創り手を育てる

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
分かりやすい授業や個に応じた指導に努め、基礎学力の定着を図る。	1	全職員で、児童の基礎基本の力の定着を図る。MIMや読書マイレージに繰り返し取り組む等、言語に親しむ活動を推進し、児童の確かな学力の向上に努める。	MIMや読書マイレージ等に繰り返し取り組んだことで、読むことへの抵抗が少なくなり、文字を読むスピードも早くなった。その結果内容の理解もより深いものにすることができるようになってきている。また漢字の習得も進んだ。しかし、定着させるまではいかなかったため、今後も継続して行う必要がある。	それぞれの取組については、児童の実態に合わせて工夫しながら進める必要がある。漢字の定着が弱いので、繰り返しの学習を継続したい。
全員参加の授業、ICTの活用等を通して授業改善を図る。	1・2	ICTを活用した教育の充実に取り組み、授業改善を図る。ICTを用いて、友だちと考えを交流し、共に高まっていくようにする。また、家庭学習の充実にも努める。	それぞれの授業のめあてを提示して授業をするよう意識したので、児童はめあてを達成できたか振り返り、自分の成長に気づき、できる喜びを味わうことにつながったと考える。またICTを活用することで、自分の考えをまとめたり、友達の考えと比べたりすることができた。	児童が主体的に学べる授業が展開できるように、今後も職員の授業力向上の取組を進めていく。
多くの職員で一人一人の児童に関わり、学習や生活に必要な支援・指導を行う。	1・2	全職員で、児童の実態把握に努める。課題や問題がある場合はチームで情報共有し、機を逃さず適切な支援・指導ができるようにする。必要に応じて関係機関との連携を図る。	児童の記録を一週間ごとにエクセルシートに記入することで、きめ細かに児童の実態を把握し、職員で情報を共有できた。機を逃さず、その時々に応じた支援・指導をすることができた。また週一回児童指導・支援関係者で情報共有する時間を設けたことも、大変有意義であった。保護者への相談体制の周知が、課題である。	今年度の取組を継続していく。常勤でない職員が児童の情報を共有できるように配慮する。保護者への相談体制の周知を、学校だよりなどで進めていく。
人との好ましい関わり方の習得を目指す。	2・3	毎日、職員が校門や昇降口で児童に挨拶をする。委員会活動を中心に、あいさつ運動に取り組む。周りの人との好ましい関わり方を習得できるように月一回ソーシャルスキルトレーニングに取り組む。	毎日職員から声をかけるので、登校時や下校時に挨拶のできる児童が増えている。学校評価の保護者アンケートからも、それが分かる。また月一回、全校でソーシャルスキルトレーニングの取組をしている。ねらいや指導方法を職員が理解して指導できるようになっている。	職員や委員会の挨拶の取組を継続していく。ソーシャルスキルトレーニングについても、効果が上がるように、職員がしっかり研鑽を積んだうえで継続していきたい。

<p>自他の健康に気を付けて生活する態度の育成を図る。</p>	2・3	<p>手洗いやマスク着用、換気やソーシャルディスタンスなど感染症予防への対策を指導を継続する。熱中症やほかの病気の予防等の保健指導、給食指導も年間を通して計画的に行う。</p>	<p>日々の教育活動や行事などでは、活動内容を見通して、感染症予防の対策をとることができた。児童も感染症予防が身に付いてきている。熱中症やほかの疾病についても、保健指導をしたり保健便りで保護者に呼びかけたりできた。給食については昨年度同様、消毒や一方向を向いての黙食を徹底し、安全に食事ができることを最優先すると共に、食育の取組も行った。</p>	<p>児童の心の健康に配慮しつつ、自分の体に目を向け、健康に気を付けながら生活できるように指導を継続していきたい。</p>
<p>学級経営や異学年交流を通して、互いの良さを認め合う集団づくりを目指す。</p>	2・3	<p>自他を認め大切にするために、成長できる場の設定や異学年との交流を深める取組を行った。</p>	<p>ペア学年間では、交流することによって、お互いの良さを認め合える場面が増え、さらに交流の輪が広がった。より効果的に行えるように、交流内容や時期や回数等は、検討する必要がある。</p>	<p>集団づくりのよさを児童が体験できる場面を検討したい。</p>
<p>目標をもって生活し、自己実現に向けた行動力の育成を目指す。</p>	1	<p>自己実現に向けた児童の育成を図るために、個々の目標設定、振り返りを行うキャリアパスポートを活用し、自分自身の成長を実感できる取組を目指した。</p>	<p>自己実現を目指すために、キャリアパスポートを用いて自己目標を学期ごとに設定した。具体的な場面で取り組めたり、学期末に振り返りをしたりできたので、自分自身の成長を把握することに繋がった。キャリアパスポートの項目を見直したことも、大変効果的であった。</p>	<p>学期初めに自己目標を設定し、学期末に振り返りを行うことに児童が慣れてきているので、継続して取り組むことで効果が上がると考える。</p>
<p>安全に対する意識を高め、安全で落ち着いた学校生活が送れるように努める。</p>	2・3	<p>毎月の「安全の日」の指導内容を整理し、各学級で共通して指導できるよう改善する。自分の命は自分で守るという意識で、災害時の身の処し方が分かるように避難訓練等を実施していく。</p>	<p>「安全の日」の指導内容を時期に応じて検討し、各クラス共通で指導できるように改善することで、学校全体で安全について気を付けようとする意欲を高められた。避難訓練は、いろいろな場面を想定して効果的に実施できた。また、登校班編成の方法を改善したことで、全体を掌握しやすくなった。</p>	<p>避難訓練は、いざというときに自分の体を守れるように継続して行っていきたい。登校班編成についてはPTAと連携し、安全な登下校ができるように考えたい。</p>
<p>地域や保護者と連携を深めながら、開かれた学校づくりに取り組む。</p>	3	<p>学校だよりやホームページの活用に積極的に努めた。また、学校運営協議会やPTAの理解・協力を得ながら、地域・家庭と協働した学校運営を進められるよう努めた。</p>	<p>学校運営協議会を通じ、児童の交通安全・防犯への見守りを強化することや校地内の環境整備を進めることができた。また、PTAと連携し、安全な登下校への意識を高めることができた。 感染症対策を行いながら、活動を精選し工夫して実施することができた。</p>	<p>引き続き、学校だよりやホームページ、学校運営協議会等を通じた情報発信に努める。 また、保護者や地域とともに児童が主役の学校づくりのための活動の見直しや取組の工夫・改善を行う。</p>
<p>今年度の学校関係者評価委員会からの意見</p>				
<p>学校へ来ていただく機会がまだ少なく回答が難しいアンケート項目もあったが、全体的に肯定的な回答と意見をいただいた。児童に付けたい力としては「思いやる心・協調性・体力・考える力」があがった。今後取り組みたいことでは、「体力向上の取組、個に応じた支援、地域連携を深める」ことなどであった。</p>				
<p>今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針</p>				
<p>今年度改正した学校教育目標に向けて、各グループ・担当で取組を進めている。どの取組もまだ途中の段階なので、学校評価での反省を生かして、見直すところは見直し、次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。</p>				